

奥の細道・千住宿

芭蕉句碑の所在 5箇所と近隣

千住は奥の細道のスタート地点でもあり、多くの芭蕉ファンが集います。芭蕉の句碑とその近隣を結んだ散策コースを作ってみました。芭蕉句に続けて、俳句を詠みながら歩くのも楽しい思い出になりますよ。
矢立て初め 細道そらと 千住葱 おじゃら句 (→駄句御免)

このコースは、千住大橋駅を早朝に出発し、まず、千住大橋を渡り左側、千住大橋公園にある、矢立て初めの地を訪ねます。そのあと、千住大橋を戻り足立市場内の飲食店などで朝食・早めの昼食を取ると良いでしょう。市場は朝5時から8時ごろまでが最も賑やかです。写真撮影などをしたい方も、早めがおススメです。近所には、石洞美術館もあります。こちらは朝10時から。原則月曜がお休みですが、営業日などは、事前に調べてから行くといいでしょう。



千住大橋公園

芭蕉が奥の細道の出発地(この地)で詠んだ俳句「行く春や鳥啼魚の目は泪(ゆくはるや とりなきうおの めはなみだ)」が刻まれている。

★ 奥の細道 矢立初めの地

足立市場

足立市場は東京都に3ヶ所ある中央卸売市場(足立・築地・大田)のうち唯一の水産物専門市場。朝5時から8時ぐらまで。市場内には、早朝から昼ぐらまで営業する飲食店もいくつかあり、鮮魚料理が楽しめる。

芭蕉像

千住橋戸町50 足立市場出て左側
(千住奥の細道7*テラス)

芭蕉像と為成菖蒲園
「街薄暑奥の細道ここよりす」石碑



石洞美術館

足立区千住橋戸町23
10:00~17:00 (入館16:30分まで)
大人500円/子供300円(小学生以下無料)
03-3888-7520



●唐加彩婦女像
(中国唐、8世紀)

佐藤千壽さん(美術工芸振興佐藤基金理事長/千住金属会長)が約60年をかけて収集した情熱のコレクションを展示。毎回120点程の展示で半年会期で展示替えが行われる。陶器筋では有名な美術館。



●茶館 妙好(1階カフェ)
体の一部に不自由があっても、前向きに一生懸命生きている人の事を、宗教的には妙好人と呼ぶところから、茶館の名前がつけられました。障害を持つ方たちが力を合わせて運営をしています。茶房には、喫茶の他、パンや、ケーキなどの軽食もあります。時間が許せば、こちらで一服し、次の場所を訪ねましょう。

五 千住神社

足立区千住宮元町24-1(境内)

千住神社の由緒 古い記録などによると、延長4年(926年)、土地鎮護と五穀豊穡を祈り、伏見稻荷より分霊を勧請し稻荷神社を創立。永承六年(1051年)、源義家は奥州征伐の際、荒川(現千住大橋付近)を渡り、二ツ森(現千住神社)に陣営し、戦勝祈願をしたとのこと。弘安2年(1279年)、武蔵国一ノ宮氷川神社より分霊を勧請し氷川神社を創立。鎌倉時代より江戸時代にかけて、ここは二ツ森と呼ばれ代々の将軍が二ツ森で鷹狩りを行ったと旧考録に記されている。寛永年間には、千住が日光街道の第一宿となり、西の森とも言われた。

千住七福神の恵比寿様の他、
●獅子頭一對(塩川徳次郎、通称獅子徳の作) ●開帳木札などの文化財も

芭蕉句碑
『ものいえば 唇さむし秋の風』



六 千住宿歴史プラテラス

足立区千住河原町21番(やっちゃば並び)

句碑『鮎の子の しら魚送る 別哉』
句碑は、建物の門の前にあり、閉館していても見ることが可能です。1830年(天保元年)3月に建築された土蔵で平成4年榊山家より寄贈され、この敷地に移設されました。間口が二間半、奥行き三間半の2階建ての建物で、ギャラリーとして、区民に無料で貸し出されている。

七 本氷川神社

足立区千住3-22

●句碑『春も漸 けしきととのふ 月と梅』
●千住七福神の大黒様
●旧社殿は、千鳥破風・その前面が唐破風となり、二重の破風を京成し、頭貫や虹梁の部分には、龍や鳥類の彫刻が目立っている。区の文化財。

八 安養院

東京都足立区千住5-17-9 (境内)

●句碑『行く春や 鳥なき魚の 目は泪』
北条時頼が創建した「長福寺」がルーツで、火災などに見舞われ現在の地に移転したと伝えられる。
●かんかん地藏尊 / ●仲良し地藏尊